

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年7月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892500059		
法人名	社会福祉法人 二十一世紀会		
事業所名	グループホーム 明の家	ユニット名	
所在地	〒319-3114 茨城県常陸大宮市野上1924-1		
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果 市町村受理日	平成26年6月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892500059-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年2月28日	評価確定日	平成26年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

空気が澄み、自然も豊かな地域にあり、家庭的な雰囲気の中で、その人らしい穏やかで楽しい生活が送れるように、真心のこもったケアに努めている。常に利用者様の意向に添い、外出やレクリエーション等の支援に取り組んだり、季節感を取り入れた環境づくりに努めている。同法人他施設との日常的な交流があり、自由な時間を思い思いにすごし、心からのバリアフリーがここには生きている。ありのままの姿を受け入れ、我が家と同様に、玄関や門には日中時には施錠はせず、自由に内外を出入りしたり、散歩や日光浴を楽しんでいる。又、他施設への出入りも可能であり、大きな家族としてむかえ入れている。様々な人たちと交流や仲を深める機会をいつでももてるようにしている。地域に根ざした施設を目指し、月一度の地域のボランティアの方をお招きしたり、夏祭りをはじめ地域の行事など積極的に参加させていただく機会を多くもつようにしている。利用者の希望や思いを第一に考え、同法人他施設の合同での国内や海外旅行を希望される利用者様は、心身ともに満喫していただけるよう、お好きな方にはお酒を酌み交わして頂いたり、温泉につかって頂いたり、カラオケ等で宴会を盛り上げて頂いたり、利用者職員が交流し合える機会の一つとして大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は田園地域の広大な土地に同法人が運営する複数の障害者入所施設に隣設している。毎年法人合同で国内外の旅行を企画しており、利用者は旅行の参加にあたり家族等の同意を得ながら、当日は20代から50代の体力のある他施設利用者の支援を得て自分の希望した旅行を満喫している。事業所において、夕食後不定期に居酒屋を開店させ、希望者にたしなむ程度のお酒を提供したり、利用者職員はお通しをつまみながら、カラオケを楽しめるように支援をしている。事業所内にはトイレを2ヶ所設置しており、利用者が混乱することがないように配慮して、男女別を明確に表示している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共にふれあい、支え合い、敬愛、思い合い」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を法人の代表と職員で話し合い、作成している。 理念を玄関や事業所に掲示するとともに、朝礼時に唱和して共有し、実践につなげている。	「地域と共に」との文言を含む地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を玄関内や事務所に掲げるとともに、職員は毎日の朝礼時に唱和して共有を図り、利用者が地域の中で暮らせるように支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、地区のあゆの里祭り、よさこい祭りなどの行事に出かけて交流を図っている。 隣接する同一法人の障害者支援施設と合同で開催する夏祭りやクリスマス会に近隣住民を招待し、交流の場を増やしている。 歌、踊り、大正琴演奏のボランティアが訪れている。	利用者は日常的な散歩や地域の祭りなどの見学に出かけている。 事業所では2ヶ月に1回地域の高齢者を招待して利用者と一緒に昼食を摂りながら、大正琴のボランティア演奏が楽しめるよう交流会を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や夏祭りなどを開催するにあたって、地域の人たちをお招きしたり、協力をあおいだりし、交流の場をもうけている。また、地域で行われる行事ごとには積極的に参加している。地域の人々に、認知症の人の理解を得たり、支援方法を伝える場をもうける機会を多くもつようにしている。また、地域の方々からの意見やアドバイスも頂いており、当施設を運営するにあたっての貴重な活力の一つとなり、地域の人たちへの感謝の気持ちを常に忘れず、支援にあたっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の代表や家族等の代表、野上長寿会会長、野上1区・2区の区長・副区長、地域包括支援センター職員、地域住民代表者などを委員として開催している。 二ヶ月に一度のペースで実施している。会議では事業所の状況や行事などを報告しているほか、防火安全体制への取り組みや外部評価の改善課題について意見交換や話し合いを行っている。 また、長寿会の行事にも参加ができるよう促している。	2か月に1回利用者や家族等の代表、地域住民、地域包括支援センター職員、市職員で運営推進会議を開催し、会議録を作成している。 会議では外部評価の結果や行事予定等の報告をするなど、事業所の現状を理解してもらえるように努めたり、明らかになった課題について、参加者が協力者となるようサービスの改善に向けた意見交換をしている。 近隣住民には、利用者が一人で外出しているのを見かけた場合に、電話をしてもらえるように連絡先を伝えている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、市内の定例会議等に参加し、市担当者等と情報交換を行い、さらに市担当者や情報交換しているほか、市に出向いて生活保護受給利用者の受入について相談するなど、事業所の実情を伝えながら協力関係を築くよう努めている。	2ヶ月に1回管理者が参加している地域のグループホーム連絡協議会が開催する定例会に市の介護保険課に参加してもらい、勉強会や情報交換をしながら円滑なサービスの提供ができるように連携を図っている。 市が実施する実地調査を受け、明らかになった事業所の課題改善に向けて市担当者から助言を得ているほか、事業所の指定更新手続きの際に相談することにより、日頃の運営に関する協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに関するマニュアルを作成すると共に、年2回身体拘束排除に向けた内部研修を実施しており、全職員が身体拘束における弊害を理解している。法人全体で事故報告を基に話し合った後、事業所に持ち帰って内部研修を行い、日常の支援について振り返り、玄関や門の施錠を含めて身体拘束をしないケアの実施を努めている。	管理者は身体拘束をしないケアマニュアルを作成するとともに、全職員が身体拘束をしないケアの実践ができるように内部研修を実施している。 玄関や個室の窓は施錠せず、外出希望の利用者には職員が付き添いながら自由に出入りができるように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、高齢者虐待防止法等について職員研修を行い、事業所内で虐待が見過ごされないよう、利用者様の入浴中等にボディチェックを行うと共に、申し送り職員が抱えている現状を共有し合えるに、ストレスをためないように話し合う機会を随時もうけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度などといったやや困難を要する内容のものも、資料等を見ながら話し合いや勉強会を行い、誰もが分かりやすく理解できるように工夫をこらし、マニュアル化することで、日々活用できるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者やご家族等の不安・疑問点などを訪ね、個々の立場に立ち、主任・管理者がわかりやすく丁寧に説明し、信頼関係を築き、理解や納得を図れるよう努める。委任状などもかわしている。	/		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。家族等からは電話や面会時に話を聴くほか、利用者や家族等が毎回運営推進会議に出席しており、意見や要望を出せる機会となっている。意見が出易いように設問を工夫した無記名の家族アンケートを実施し、旅行についての要望や居室への加湿器の設置、リビングへのソファの設置等要望を受けて運営に反映させるとともに、アンケートの結果を廊下に掲示している。			事業所は3カ月に1回利用者が食べたい物や出かけた場所など、生活に関する要望を一人ひとりから聞き取り、アンケートの集計結果を記録に残し、利用者の望む暮らしの実現に努めている。家族等には年1回無記名アンケートを実施し、意見や要望を汲みあげるように努め、出た意見等を基に、利用者全員の衣類の管理方法を見直したり、改善を図るなど、運営に活かしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に話しやすい環境づくりに努めながら日常的に職員の話聞くほか、月1回の法人全体の会議や日々の申し送り時に意見や要望、提案を出せる機会を設けている。職員の休憩場所にソファを設置し、職員の能力に応じた勉強会の実施等、職員から出た意見等を運営に反映させている。	法人代表者は月1回全体会議で職員の意見や要望を聞くとともに、管理者は朝の申し送り時に職員からの意見や要望を基に、新人職員にもわかり易い高齢者の疾患に関する研修を行うなど、出た意見等を運営に反映させるよう努めている。	/	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員との意見交換を積極的に持ち、個人の努力や実績を把握し給与水準・労働時間ややりがいなど各自の向上心を持って働けるよう、職場環境条件の整備に努めている。	/		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人内の職員全体会議で講義を自ら行い、職員一人ひとりの力量等の把握に努め法人内外の研修を積極的に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は常陸大宮市連絡協議会に参加する機会を設け、管理者や職員が同業者との交流を深め、サービスの質の向上をつなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に前ケアマネージャー等より本人の情報収集を十分に行い、各職員に周知し、本人とかかわる時間を多く持ち、常に寄り添い、本人の居場所作りと安心を確保するための関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に前マネージャー等より本人の情報収集を十分に行い、ご家族の話に傾聴し、よりよい関係となれるように連絡を密にする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話に傾聴し、本人の生活様子観察を行い、その日その時に必要としている支援を見極め、申し送り等で職員に周知徹底し、全職員が対応できる様努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を家族の一員と思い、利用者主体の真心のこもったケアに努め、ありのままの利用者を受け入れ、安心して我が家のように暮らしていただけるよう、良好な関係が築いていけるよう、努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と経過報告等の連絡を密に行い、家族がいつでも気軽に面会ができるような場所を提供し、共に本人を支えていく関係が築けるようにしている。明の家の本人の状況がわかるように、「明の家だより」を月一回、郵送している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親戚や知人が来訪しているほか、利用者は家族等の協力を得て正月や盆に帰省したり、墓参り等のため外出している。職員は利用者が家族等に電話をかけたり、利用者にかかってくる電話の取次ぎを支援しているほか、利用者が手書きした年賀状や葉書を同封するなど、馴染みの人とのつながりを継続できるよう支援に努めている。近隣の馴染みの理・美容院が来訪している。	利用者が自宅に日帰りで戻った際、これまで馴染んできた地域で外食や買い物をして過ごせるように、家族等と連絡を取りながら支援に努めている。 職員は馴染みの理・美容院に付き添ったり、電話や年賀状のやり取りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の利用者の生活状況を把握し、利用者同士の関係をより良くするため、食事作り、園芸活動、散歩、レクリエーションなど趣味や特技を活かし、共にすごせる時間をもてるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、利用者のご家族とのこれまでの関係性を大切に継続し、その後の相談や支援に応じる姿勢を常に示し、経過を見守ったり、必要に応じて相談にのったり、支えとなれるように信頼関係をずっと築いていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員はアセスメントシートを活用して利用者の生活歴や思いを把握するとともに、さりげなく話しかけて希望や悩みなどを聴くほか、三ヶ月に1回利用者の意向調査を実施し、思いにそった支援に努めている。 思いを表せない利用者の場合は家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさ、つぶやきなどから思いを汲みとるように努め、利用者本位に検討している。 飲酒を希望する利用者には職員が見守りを行い、たしなむ機会をつくるようにしている。	利用者の思いや意向は日々の介護記録に記載して職員で共有を図り、言葉にならない思いにも寄り添い、「お酒が飲みたい」との要望にも利用者本位に検討して支援している。 利用者の意向にそった食事や外出の支援のほか、これまで会うことが叶わずにいた家族等との再会を企画し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や職歴、病歴などの把握に努め、プライバシーに配慮をしつつ、自分らしく馴染みやすい生活環境を共に作り、見いだせる支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりへ寄り添い、日々のケアの中で本人のできること・できないことを見極め、本人にできることは、時間がかかっても本人のペースで行っていただき、職員は手助けとして見守り関わりながら、本人のできることの喜びを味わえるような支援を行っている。ADL低下がみられた利用者を全職員で本人に向き合い、自立支援を促し、少しずつレベルアップ化を目指しケアにあたっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族等の意向や利用者の生活面での課題を把握するとともに、計画作成担当者を中心に職員で話し合って作成し、家族等の来訪時に説明して同意を得ている。毎月モニタリングを行うとともに3ヶ月毎に計画作成担当者と職員で担当者会議を開き、介護計画を見直している。利用者の心身の状態に変化が生じた場合には現状に即した介護計画に見直している。	利用者や家族等から聞き取った思いや意向とモニタリングとして実施している「ケース検討会」の内容を突き合わせながら管理者と職員で話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成している。 状態に変化が生じた場合には、現状に即した内容に変更しながら支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別毎に日中・夜間帯の様子を個人ケースに細かく丁寧に記録し、些細なことでも全職員と情報を共有し、今後のケアの仕方や介護計画見直しを行っている。GH内での一日に2回の申し送り等で共有し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者やご家族の声に耳を傾け、その時・その場のニーズに応じて、柔軟な支援を臨機応変的に行っている。他施設で日中過ごしたい、他施設のお風呂に入りたい、買いたいものがある等利用者様の声に傾聴し、納得いただけるような支援やサービスを提供・多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりが地域資源を最大限に活用できる施設づくりに専念し、心身ともに健康でその人らしい安心・安全な生活ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としている。協力医療機関への受診は職員が付き添い、家族等へは電話や面会時に報告するとともに「病院受診ノート」に記録して全職員で共有している。隣接する同一法人の障害者支援施設の看護師の協力を得ているほか、協力医療機関の医師の往診があるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医を変更することなく、必要に応じて受診ができる体制となっている。家族等の付き添いが困難な場合には職員が通院介助をしているほか、受診状況は電話等で家族等に報告している。家族等と受診する場合は、日頃の状況がわかるように電話や文書で主治医に伝えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他事業所に看護師がおり、連携を密に取り合い、利用者に心配な面があれば、いつでも適切なアドバイスや看護を受けるられるように努めている。また、勉強会などを通じて、看護師から学ぶ機会を随時設け、職員の知識化に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、職員や家族等と相談しながら、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の対応指針を作成し、事業所でできることとできないことを利用者や家族等に説明して同意を得ている。事業所は看取りを行う方針であり、管理者はマニュアルを作成したり、ターミナルケアの研修会を実施するとともに協力医療機関と連携し、方針を共有して体制を整えている。	事業所は看取り介護の実績はないが、利用者の重度化や終末期のケアには利用者や家族等に対応方針を説明して同意を得ながら取り組んでいくことにしている。看取り介護を行う方針であり、同じ法人の他施設の看護師とターミナルケアの研修会を開催するなど連携を図り、いつでも必要に応じて看護師が訪問できる体制づくりに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	利用者一人ひとりの急変時や事故発生時に備えて全職員が把握できるよう、マニュアルや手順表を作成し、内部研修等で看護師から学び、定期的に訓練を実施し、実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	第1回消防署立会いの総合避難訓練を実施するとともに、毎月災害の種類や様々な時間帯を想定した避難訓練を行うほか、年2回隣接する同一法人の障害者支援施設と合同で避難訓練を実施し、協力体制を築きながら災害に備えている。避難訓練の結果を記録するとともに課題や反省点を話し合い、目標時間内に避難が難しい利用者の居室を避難しやすい居室に変えるなど検討し、次回の訓練にいかしている。緊急連絡網を作成して事務室に掲示するとともに、夜間火災発生時の避難手順をマニュアル化して台所と赤電話近くに掲示している。災害発生に備えて食糧や飲料水、自炊用品、ヘルメット、懐中電灯、電池、毛布、ストーブ、薬など備蓄している。	避難訓練は夜間や火災以外を想定したものを含め、毎月1回実施しているほか、法人合同の訓練には年1回参加している。避難訓練の実施記録を作成し、次回の実施に向けた反省や改善の検討を行うとともに、前回訓練の課題に挙げられた「新人職員への教育」については、管理者がわかりやすく伝えるなど、改善を図っている。災害に備えて3日分以上の飲料水、米、乾物、おむつ等を備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は人格の尊重とプライバシーに関する勉強会を実施して職員の向上に努めており、職員は利用者は一人ひとりの人格を尊重をし、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管し、取り扱いには十分注意を払っている。	管理者は職員に守秘義務に関する研修会を実施するとともに、家族等にはプライバシーの保護についての事業所の取り組みを契約時に文書で伝えている。 年長者を敬う気持ちで声かけをしたり、利用者の目線に合わせた姿勢で話しかけるなど、人格を尊重してプライバシーを損ねないように支援している。 利用者の個人情報に関する書類は事務所の目に付かない棚に保管しているが、取り出し易い場所であるため、情報漏えいに配慮された管理までには至っていない。	個人情報に関する書類の保管場所は、関係者以外に持ち出せない場所に保管することが望ましいので、事務所の手の届かない場所への変更が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択でき、自己決定ができるように、日常生活の中で傾聴する姿勢を第一に考慮し、寄り添いながら、希望や願いを引き出せるような支援に努めている。また、意思表示が困難な利用者様には、アイコンタクトをとりながら、本人のもつシグナル等をキャッチでき、関わり合いを十分に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日又はこれから何がしたいのか希望を聞き、好きな時に自由に過ごしていただけるように、他施設とも連携や協力を得て、利用者に満足感を味わっていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域にある馴染みの床屋に来ていただき、本人の要望に答えてくださっている。また、利用者が床屋に行きたいと要望に添い、洗髪やパーマをかけていただいたりして本人の満足を得ている。また、女性の利用者様には毎日、化粧をしていただいている。一人ひとりの好きな色、好みの服やファッションを把握し、いくつになっても皆でおしゃれを楽しんでいようという気持ちを持ち続けてもらいたいという一心を常に持ちケアに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>施行アンケートを定期的実施し、毎日の食事が楽しみの一つとなるよう、個々に好みを確認したり、単所会や日々のメニューに季節感あふれる食材をとりいれたり、赤飯・おこわ・もちなどを的教師喜んでいただいている。また、クリスマス会や旅行、居酒屋などのイベントのときは体調に問題なくお好きな方にはお酒を提供している。また、利用者様と台所に立つ機会も毎日もち実際に包丁をもって野菜類を切ったりし、それぞれの能力をいかし、ケアに努めている。</p>	<p>職員は利用者の嗜好を把握し、食事が楽しみなものとなるよう外食や庭に出での食事を支援している。 利用者は自家菜園で野菜を作ったり、食事の準備や後片付けなどの役割を担っている。 職員は利用者と一緒に楽しく会話を交わしながら同じ献立の食事を摂っている。 年間行事予定にそって外出した際には、事前に利用者全員と相談して決めておいた店に行き、外食を楽しんでいる。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>食事量や水分量は毎時、一人ひとり記録に残し、職員間で共有できるようにしている。また利用者様の病状やその日の状態、好みによっても量も変化することがある。給食係を中心に献立を作成し、野菜も肉も魚もバランス良く摂取していただけるようにしている。</p>	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<p>全職員が利用者一人ひとりに見合った口腔ケア実施に努めている。随時、他事業所の看護師やかかりつけ医、歯科医より指導や診断を受けている。食事前には口腔ケア体操を実施し、食後は歯磨きや義歯の洗浄などを職員が見守りや一部介助にて清潔保持に努めている。また、口腔ケアを実施したか否か、口腔状態は、随時記録に残し、職員間で共有し合っている。</p>	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<p>職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンやリズムを把握するとともに、タイミングを見計らいながら声かけ誘導をし、日中はおむつをしない支援に取り組んでいるほか、夜間でもトイレで排泄ができるよう誘導し、排泄の自立化に向け支援している。</p>	<p>職員は排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの排泄のタイミングを計りながら、トイレでの自立した排泄ができるよう声かけや介助に努めている。 トイレ内はいずれも車いす対応で広く、利用し易くなっており、介助が必要な状態でも排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄チェックを記録、把握に全職員が努め、便秘または下痢にならないように努めている。また、排便がなかなか利用者様には食物繊維の多い食品を摂取していただいたり、運動をしたり、無理のないように個々に応じた予防・対応策を随時考案・実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に添って毎日入浴画でいるように準備するとともに、夕方でも対応するなど、個々に応じた入浴支援をしている。入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら、言葉かけの方法や職員を代えて無理強いのない程度に促している。季節毎に柚子湯や菖蒲湯を取り入れ、季節を感じながらゆったりと寛いだ気分で入浴ができるよう工夫している。毎月外食をかねて市内の温泉に出かけることが毎月の楽しみとなっている。	毎日朝夕の時間を限定することなく、利用者の希望にそって入浴支援を行うとともに、安心して入浴ができるような声かけに努めている。 職員は利用者には足のマッサージをしたり、一緒に歌を歌うなど、入浴が楽しみなものとなるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりに見合った寝具や居室づくりを心掛け、心地よく快眠ができるように努めている。快晴の日には、カバー類をすべて洗濯し、布団類は日干しをし、ダニ対策・消臭に努めている。寝具の色や枕の形なども人それぞれの好みを大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的や副作用・用法・用量等を看護師やかかりつけ医等からアドバイスを随時いただき、理解に努めている。服薬の飲み忘れ、誤飲を防ぐために、服薬時の復唱、服薬チェック記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、喜びや張り合いのある日々を送っていただけるよう、本人の意向を聞いて一人ひとりにあった役割を持っていただいたり、一人ひとりに希望・楽しみを聞き、個別に対応している。利用者が他施設で談話したり、食事をしたりして、自由な時間をくつろいで過ごしていただいている。本人の好きな時、自由に散歩やCD・TV観賞を行う等、利用者本位のケアを努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は利用者の体調に配慮しながら希望する散歩や買い物に出かけられるよう支援している。かかし祭りなどの地域の行事に出かけているほか、意向調査を実施して利用者が希望する場所への外出支援に取り組んでいる。隣接する同一法人の障害者支援施設と合同で海外や国内の温泉地など、遠方への宿泊旅行を支援しているほか、利用者は家族等の協力を得ながら外食や居酒屋などに出かけている。	利用者は日常的に散歩に出かけるとともに、年間外出計画に基づき、初詣や花見、紅葉狩りのほか、1泊旅行や法人全体で企画した台湾旅行に参加し、普段行けないような場所にも外出ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出等を通し、本人の欲しいものや食べたいものをうかがい、職員が見守りながら、お金を出して物を購入する喜びを味わっていただけるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の声に常に耳を傾け、家族の声を聞きたい、手紙を出したい等という希望があれば、利用者にも満足を得られるような対応を行う。また、家族等に年賀状や暑中見舞いなどの季節のお便りや写真等をお送りして、利用者様の様々な暮らしぶりをお知らせしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設の花壇などで育てた季節の花を飾ったり、廊下の壁には外出やイベント時の思い出の写真や利用者様の習字やぬり絵などの作品を掲示・展示し、どなたでも心地よくリラックスした気持ちで過ごせるよう日々配慮している。	居間兼食堂は日当たりが良く周囲の自然が見渡せる造りになっており、利用者は季節の移り変わりを感じながら過ごすことができるほか、鉢植えや利用者様の習字の作品、行事の思い出の写真などを掲示し、穏やかに過ごせるよう配慮している。 加湿器を備えて湿度調節に配慮するほか、ソファを配置して利用者と職員と一緒に居心地よく過ごせるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は十分な採光を取り入れるとともに、加湿器を備えたり温度調整をして居心地を過せるよう工夫している。玄関や居間、廊下には利用者が製作した手芸品や外出時の思い出の写真を飾るとともに、花壇で育てた季節の花を飾り、季節を感じながら穏やかに過せるよう配慮している。家族などや職員の意見を受けて居間にゆったりとしたソファを置き、利用者が寛いで過せるよう配慮している。どの居室からもベランダに出られるよう設計されており、利用者は田舎の広々とした景色を楽しむとともに、会話や外気浴したり、寝具を干したりしてすごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にベッドや洗面台を備え付けるとともに、カレンダーを壁にかけたり室内用物干しを置いて、自立した生活ができるよう配慮している。利用者はテレビや使い慣れた筆筒、家族の写真は手作りの作品、観葉植物、以前に楽しんでいた碁盤を置き、自分らしい部屋作りをしながら思い思いに居心地よく過せるよう工夫をしている。	利用者は家族等の協力のもと、自宅で使い慣れた家具や電化製品、お気に入りの化粧品やぬいぐるみなどを持ち込み、心地よく過ごせるような空間づくりをしている。 職員は家族の写真やカレンダー、造花など利用者の馴染みの物を飾り、安心して生活ができるような居室づくりとなるよう工夫している。 各居室からは広いベランダに出られるようになっており、布団を干したり、いつでも外気浴ができるように窓を開放している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	園芸や料理、掃除など利用者様それぞれの趣味や特技をいかし、職員と共に実施している。利用者様、個々の残存能力を大切にし、着脱や移動、食事の下膳など、できることできないことを見極め職員共に実行し、自分自身でマイペースに何かを行える喜びや達成感を味わっていただくとともに心身のリハビリとなるよう、安全に気をつかいながらケアに努めている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム明の家

作成日 平成26年7月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	個人情報に関する書類等の保管場所は、関係者以外に持ち出せない場所に保管をしなくてはならない	一人ひとりの人格やプライバシーを確保するため、個人の書類等の保管方法を変更する	事務所内に新たに棚やロッカーを設置し、個人情報等が掲載されている書類等は高い位置や鍵のかかるロッカー内に保管し、関係者以外は持ち出させないように工夫をした。	3か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。